

2023年東大比較文學會会員主要業績リスト

氏名	業績タイトル(最大3つ)	出版社、掲載媒体名	出版年月
有信 真美菜	「祝宴の料理を描／書きたいのか書きたくないのか？ 中世ドイツ語圏の人々の飲食物に対する複雑な思い」	西洋中世学会編『西洋中世学研究』No. 15、143-151頁	2023年12月
井戸 桂子	「クローデルと二条城―「松の中の譲位」でのコンキスタドール―	『クローデルとその時代』、水声社、57-88頁	2023年6月
	「ポール・クローデルにとっての大樹―『黄金の頭』から「松の中の譲位」へ―	『駒沢女子大学研究紀要』第30号、15-30頁	2023年12月
	アンヌ・ユベルスフェルト『ポール・クローデル』(共訳)	水声社	2023年8月
稲賀繁美	【編著】『蜘蛛の巣上の無明 インターネット時代の身心知の刷新にむけて』	花鳥社、434頁	2023年2月28日
	«Le projet de l’histoire de l’art mondial de Malraux : Résurrection ou mise à mort de -l’œuvre -d’art ?»,	<i>Malraux vu du Japon : Roman, essai et arts, , Paris, Classiques Garnier</i> , pp.153-168.	2023年2月1日
	"The Origin of Modernist Aesthetics as the Oblivion of Political Struggle: The Case of Édouard Manet and the Marketing Strategy of His Posthumous Auction in 1884"	<i>Κριτική</i> , Anno III – 2022, pp.163-182.	2022年11月（但し印刷は2023年夏）
今橋 映子	(共著)今橋映子・韓程善・井上健・西田桐子・町田樹『「比較研究」とは何か」を語る二つの視座』	『近代画説』第31号、明治美術学会、37-54頁	2023年5月
大久保 美春	「岡倉天心の『茶の本』と近代建築思想―坂倉準三とシャルロット・ベリアンの場合―」	『LOTUS』第43号、日本フェノロサ学会、1-21頁、	2023年3月
太田 昭子	『ヴィクトリア朝の福澤諭吉と岩倉使節団 ―幕末維新期における〈知〉をめぐる旅』	慶應義塾大学法学研究会	2023年5月
大西 由紀	「日本における「マック・ザ・ナイフ」の変容――色男、ときどき義賊」	『日本文学研究入門「基礎演習」テキスト』改訂第15版、大東文化大学文学部日本文学科、167-179頁	2023年2月
川本 皓嗣	「開かれた作品」としての連句――マイナー訳『猿蓑』をめぐるって "Linked Poetry as Consecutive Pun: Monkey's Straw Raincoat by Earl Miner" (2021年業績「現代に生きる俳句――『猿蓑』のオール・マイナー訳」の加筆修正版・英文要約付)	『日本学士院紀要』第78巻第1号、1-20ページ	2023年10月
私市 保彦	「川端康成とバルザック」	武蔵大学人文学雑誌、54巻第2号、武蔵大学人文学会	2023年
	「バルザックの斬首ファンタスム(下)」	「後期」19号、「後期」の会	2023年
古田島 洋介	「〈重訳〉語誌略説」	比較文学研究第108号、165-176頁	2023年1月
	「書評：紅野謙介『国語教育の危機――大学入学共通テストと新学習指導要領』(筑摩書房《ちくま新書》1354、2018年)」	明星大学研究紀要【人文学部・日本文化学科】31、79-88頁	2023年3月
	「〈踏み落とし〉再考――要らざる用語を安易に用いるなかれ」	金光林[編著]『東アジア理解講座――歴史・文明・自然・環境』(明石書店)第九章、221-238頁	2023年4月
西原 大輔	『一冊で読む日本の近代詩500』	笠間書院	2023年9月
	『近代日本文学・美術と植民地』	七月堂	2023年12月
佐々木 悠介	「読みかえられる物語 ―『ねじの回転』のアダプテーション作品群をめぐるって」	『国際地域学研究』26、東洋大学国際学部、129-146頁	2023年3月
定村 来人	『河鍋暁斎の挑戦 狂画で拓いた新時代』	東京大学出版会	2023年8月
佐藤 宗子	佐藤宗子・久米依子編『現代日本子ども読書史図鑑』	柊風舎、638頁	2023年1月
田村 隆	『与謝野晶子訳 紫式部日記・和泉式部日記』(解説)	角川ソフィア文庫	2023年6月
	『源氏愛憎―源氏物語論アンソロジー』(編・解説)	角川ソフィア文庫	2023年11月
趙 怡	「上海租界のフランス語新聞Le Journal de Shanghai(1927-1945) ―文化欄を支えた多国籍の執筆陣」	榎本泰子ほか編『上海フランス租界への招待――日仏中三か国の文化交流』、勉誠出版、117-138頁	2023年1月
	「ランバース一家と上海(1854-1921)に関する考察」	関西学院大学経済学部研究会『エクス 言語文化論集』第13号、239-266頁	2023年3月
	「上海租界《法文上海日報》報導的中國早期電影與影星」 (『中国の娯楽とジェンダー』勉誠出版、2022年3月の中国語版)	中國性別研究會編《中國的娛樂與性別：女性之「變」》、國立臺灣大學出版中心	2023年11月

張 競	『羅針盤なき航海』	論創社	2023年3月
	「謎のシエルコフ夫人を追って六千哩」	『アステイオン』98号、263-281頁	2023年5月
寺田 寅彦	アラン・コルバン『1930年代の只中で 名も無きフランス人たちの言葉』（共訳）	藤原書店	2023年10月
永井 久美子	『排他と類杖——作家イメージの類型論』	東京大学ヒューマニティーズセンター（HumanitiesCenter Booklet Vol.19）、1-33頁	2023年3月
花方 寿行	ラモン・デル・バリェ＝イン克蘭『暗い庭——聖人と亡霊、魔物と盗賊の物語』（翻訳）	国書刊行会	2023年6月
前島 志保	「貯金から利殖、そして再び貯金へ——戦間期日本における女性向け資産運用言説」	『現代思想』51(2)、青土社、94—111頁	2023年1月
	『メディア史の中の「アサヒカイカン コドモの本」———特色、変容、そこから見えてくるもの』（EAA Booklet 27-2）	東京大学東アジア藝文書院、全59頁	2023年3月
	"Presenting an Egalitarian Multicultural Empire through Transparent Media: Photographic Reporting in Print Mass Media in Late Interwar Japan"	<i>International Quarterly for Asian Studies</i> , 54(3), pp.281-322.	2023年11月
増田 裕美子	「顔の時代のジャポニスム」	『二松学舎大学人文論叢』第110輯、57-82頁	2023年3月
	「『三四郎』の人魚と漱石の翻訳不可能論」	『二松学舎大学人文論叢』第111輯、41-75頁	2023年10月
	「100年前の日本とクローデルの問題意識—目に見えないものをいかに表現するか」[大出敦編『クローデルとその時代』（水声社、2023年）への書評]	『図書新聞』第3619号、武久出版、4面	2023年12月16日
松枝 佳奈	「日露戦争期の雑誌にみる両国の相互イメージとその変遷 ——『太陽』『ニーヴァ(Н и в а)』誌面比較の試み」	『スラヴ文化研究』第20号、54-79頁	2023年3月
	「ロシア文学を英語で学ぶ漱石——漱石のロシア文学受容再考の試み」	『近代アジアの文学と翻訳——西洋受容・植民地・日本』アジア遊学286、勉誠出版、9-20頁	2023年7月
山中 由里子	「巨人の名残り—遺物をめぐる中世イスラーム世界の驚異譚と巨人」	勝又悦子編『「巨人」の場(トポス) —古代オリエント・ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人表象の変遷』同志社大学—神教学際研究センター（CISMOR）、115-138頁	2023年3月
	「抗体としてのモンスター——表象の疫学から解くアマビエ現象」	『季刊民族学』184号 47(2)、89-93 頁	2023年4月
	「放浪のベテン師たちと偽マンドラゴラ」(特集 ニセモノの創造力)	『月刊みんぱく』47(11)、8頁	2023年11月